

海外情報



ノンウーヴンズ・マーケット特約

■欧州

ポリプロピレンの消費量が増加

2002年、欧州不織布メーカーのポリプロピレン消費量は前年比6%増加した。欧州でのспанボンド、メルトブローン関連の消費量は02年、前年比で6.4%増の31万4,000tとなった。

欧州テキスタイル・ポリオレフィン協会によれば、不織布メーカーによるステープルファイバーの消費量は、前年比で5.8%増の25万7,000t（ステープルファイバー全体の消費量57万tの45%に当たる）となった。

同協会の「ポリニュース」によれば、02年のポリプロピレンの繊維用途の消費量は前年比で増加し、その伸びは主にステープルファイバー、спанボンド、メルトブローンでの不織布の良好な実績が要因となっている。

また同ニュースによれば、02年の西欧州におけるポリプロピレンの生産能力は、01年の890万tから3.4%増の920万tに増加した。一方、トルコを含む東欧州のポリプロピレン生産能力は、63万tから74万5,000tへと拡大した。

■中国

テクニカル・テキスタイル急成長

中国でテクニカル・テキスタイルが過去10年以上にわたり急速に発展している。中国のテクニカル・テキスタイル

の年間消費量は98年の53万tから02年の208万1,000tへと急激に増加した。

98年から02年の14年間では、年間増加率は11%を超える。テクニカル・テキスタイルは、中国経済の持続した急発展と同じペースで成長している。過去13年間のGDPの年間成長率は9.3%であった。

人工皮革の基布は靴、ボックス、装飾といったメーカーの急速な発展に伴い需要が伸びている。織物やニット素材が基布に使用されている分野を除き、ニードルパンチや水流絡合不織布は、これまでも人工皮革の基布に使用されてきた。

02年の人工皮革基布の消費量は21万8,000tであった。また、ここ数年パッケージング業界の急速な伸びに伴い、織物、不織布の多品種パッケージング素材の需要が高まっている。02年の消費量は01年より40%以上伸びて15万tとなった。

さらに、住宅用、商業用ビルの建設の発展に伴い、耐水性ルーフィング素材が急速に伸びている。以前は耐水性ルーフィング素材にはアスファルト・フェルトベースの紙素材が使用されていたが、現在では改良アスファルト・フェルトをベースとしたポリエステル不織布の使用が増えている。現在、ルーフィング素材をベースとした繊維の消費量は3万5,000tとなっている。

■ウェスタン・ノンウーヴンズ社(米国)

03年末に増資計画が完了

ウェスタン・ノンウーヴンズ社は、03年末に、14ヵ月におよんだ2,000万ドル増資計画を完了する。同社は03年末までに、セレックス・ナイロンスпанボンド事業を除き、ハイロフト、サーマルボンド、レジボンド設備の改良を終え、商業生産のフル稼働態勢を整える。

同社は01年ミズーリ州工場で起きた火災以来、定期的設備改良財源と保険

を充当し、同計画を推進してきた。

03年6月、同社は、カリフォルニア州カーソンのウェスタン・シンセティック・ファイバー工場にサーマルボンドラインを新設し、カリフォルニア州コマースのボンディッド・ファイバーロフト工場にウェスタン・シンセティック・ピロー、パルテックス・カット&ソー設備を統合し、レジボンドラインを改良すると発表した。

同社はこのカリフォルニア工場の改良工事に約500万ドルを投資する。カリフォルニア州カーソンの180インチ幅の新サーマルボンドラインの稼働により、同社の日用品生産能力は大幅に増強される。製品にはカリフォルニア市場向け耐火性素材も含まれる。またフィルター、ベッド素材用のレジボンドラインも近代化される。

■PCMC社(米国)

ウィスコンシンで212人リストラ
ペーパー・コンバーティング・マシナリー(PCMC)社は、今後2ヵ月間でウィスコンシン州グリーン・ベイの紙/ティッシュ用加工機械工場を生産・事務を担当する212人の従業員を解雇すると発表した。

解雇理由は、ウィスコンシン州グリーン・ベイ工場から生産コストの安い他工場への生産業務の移管により、コスト削減を図るためと、機械の新規注文が伸び悩んでいるため。このリストラ策は、同社とアメリカ自動車・航空機・農器具合同労働組合(UAW)1,102支部との契約交渉が決裂した後、発表された。

PCMC社の労組代表トム・デリクソン氏によれば、組合員は譲歩に応じるつもりだったが、会社側の要求は厳しすぎた。PCMC社は給与削減、会社主導による業務日程の大幅な変更を求めている。

同社は00年以降、世界中で従業員の

削減、設備の閉鎖を行ってきた。昨年8月には、84年続いた英国の工場閉鎖を発表し200人を解雇している。それ以前にはウイコンシン州で工場閉鎖、採用抑制、定年退職、一時解雇で500人を削減した。なお、英国、イタリア、日本、中国、ブラジル、スイス、ドイツでの事業は保持される。

■プロビデンシア社（米国）

米国でのサニタリー事業を拡大

南米最大のスパンボンドメーカー、ブラジルのプロビデンシア社は米国でのサニタリー事業の積極的拡大の道を模索している。

同社は、小規模で不安定な経済への依存体質から脱却し、巨大市場への事業拡大を狙っている。しかし、現在、同社は低価格路線により収益性が下がっている。

国内の一部の原反メーカーや中間業者は、プロビデンシア社は業界では考えられない低価格で9ヵ月間、事業拡大を行っているという。これは、同社が米国で関税を支払う必要がないため。一方、米国企業はブラジルへの輸出には高い関税を支払わなければならない。

プロビデンシア社はサニタリー市場をターゲットに事業を展開している。88年にスパンボンドの生産を開始、2年後に米国の家具、ベッド業界へ製品を提供し始めた。現在は7ラインを所有し、4万6,000tの年間生産能力をもつ。同社は4ラインがスパンメルト、3ラインはスパンボンドラインで、すべてポリプロピレンを使用している。

製品の70～80%は大人用、ベビー用の紙おむつコンバーターに販売している。3/4はブラジルで生産を行っている。

■バンテックス・グループ（欧州）

スパンレース事業から撤退

バンテックス・グループは8月に水流絡合ラインを売却し、スパンレースのワイパー事業から撤退して、主力のサ

ニタリーのトップシート事業に注力すると発表した。

同社は唯一の水流絡合ラインではヤコブ・ホルム・インダストリーズ社、スオミネン社、オランダ社といった欧州最大のスパンレースメーカーと競争しても生き残れないと考えた。同社は利益の出る原材料価格を決めたり、大規模プロジェクトの獲得競争に勝ち残ることができず、水流絡合ワイパーの粗利はかなり低くなっていた。

さらに同社はラインのあるイタリアの市役所と争議を起こし、360万ユーロの損害賠償も抱えていた。

同社は、8月末にパーフォジェット社製の2つのカードラインを停止し、売却を計画している。96年に購入し、01年に改良を施した、生産能力6,000tの同ラインは、プロクター&ギャンブル社、キンバリー-クラーク社、他のプライベートレーベルメーカーに製品を提供していた。この売却により、約20人の従業員が解雇される。

今後はサニタリー事業を強化し、03年には独自のカードラインを稼働させ、女性用製品、大人用失禁製品の顧客向けに主力製品を生産していく。

■フレッスナー社（ドイツ）

長年の顧客ツイマー社に売却

ゲロルド・フレッスナー氏は、4世代続いたファミリー企業フレッスナー社を、昔からの顧客であるツイマー社に売却した。

創業155年のフレッスナー社は、水流絡合システムの大手メーカーで、化学繊維のライン、織物製品の仕上げ設備、スルーエア・ドライヤーも生産している。ツイマー社はポリマーや化学繊維生産用のターンキー工場や設備ユニットの設計、供給、建設を行っている。

ツイマー社は今回、2つの戦略的理由によりフレッスナー社を買収した。長年にわたりステープルファイバー設備

の主要サプライヤーであるフレッスナー社の買収により、ツイマー社は新市場に参入する。

売却手続の完了には、連邦政府の承認が必要であり、フレッスナー社は2人の経営陣を解任する。同社はそれ以外の変更は行わず、雇用はそのまま確保される。なお、同社には負債はない。

■ポール・ハルトマン社（ドイツ）

子会社のジグラー社を売却

ドイツのサニタリー・医療製品メーカー、ポール・ハルトマン社は、子会社のJHジグラー社を投資会社、スタウフェン・インベスト社に売却する。

ジグラー社は02年1,000万ユーロの売上げがあり自動車、家具業界に製品を供給している。従業員は90人、ニードルパンチ、ラミネート不織布、ワディング、フォーム複合不織布を生産している。

スタウフェン社は、他のホールディング社2社のうち1社と提携してジグラー社の事業を立て直していく計画である。スタウフェン社は民間の投資会社で、ドイツの中規模企業をターゲットとしている。

ハルトマン社は、同社の主要事業ではないためジグラー社の売却に踏み切った。しかし、ジグラー社は今後もハルトマン社にプラスター、枕・布団素材を供給していく。なお、ハルトマン社は、01年に11億ユーロの売上げを計上している。

■ナイスパック・プロダクツ社（ドイツ）

2,320万ユーロで独にワイパー工場

米国の市販・医療用ウェットワイパーメーカー、ナイスパック・プロダクツ社は2,320万ユーロを投じ、ドイツにワイパー工場を建設している。

新工場はベルリンとハノーバーの間に位置し、04年春の完成予定である。工場/オフィス用の敷地は8,000㎡、06年までに従業員を100人雇用する予定。そ

の他、詳細については不明。

ナイスパック社によれば、工場建設地は顧客・道路へのアクセスの良さ、政府からの助成金の額により決定された。ナイスパック社は400万ユーロの助成金を受け取る。

ウェットワイパーの大手メーカーを自負するナイスパック社は、米国と英国に生産工場を所有する。同社は57年に設立され、92年英国に工場を開設した。同工場は、英国で販売されるウェットワイパーの半分以上を生産している。今年1月、同社はニューヨークで18

万6,000平方フィートの商業スペースを賃貸契約で確保し、倉庫業務と販売業務を統合した。

■スオミネン社（フィンランド）

オランダのコーディ社を買収

投資会社のギルド・パーティシパイツ社はオランダのウェットワイパー加工会社コーディ・インターナショナル社を買収したが、同社をフィンランドのJW スオミネン・グループに6,000万ユーロで売却した。

コーディ社は欧州第3位のウェットワイパー加工会社で、ウェットタイプ

のトイレットペーパーも生産する。製品の大半は水流絡合基布を使用。コーディ社の02年の売上は8,520万ユーロ、税引き後収益は410万ユーロであった。03年の売上は1億ユーロに上るとみられる。

スオミネン社の不織布事業は同社最大の基幹部門で、水流絡合、サーマルボンド不織布を生産している。同社は2年前に設立され、パッケージングやウェブ製品も販売している。03年前期不織布事業の売上は3,940万ユーロ、営業収益は360万ユーロであった。

機器紹介

■池上機械

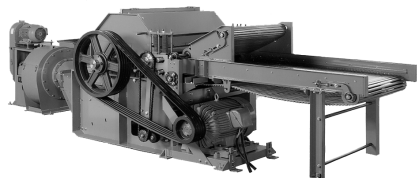
“リサイクルブレーカー”など

池上機械ではこのほど天然繊維、合成繊維、無機繊維などの特性をできるだけ損わずに、効率よくリサイクルするための前処理機“リサイクルブレーカー（RECYCLE BRAKER）”を発売した。

【特長】

(1)厚い物、硬い物、嵩高な端切れなど種々雑多な端材に対応できるよう、特殊鋼で特殊形状の考案によって、解砕力を高め、繊維損傷を最小限に抑えることができる

(2)処理能力は、材質、商品構成、処理の粗密度などによって異なるが、ごく普通の商品で、次工程のリサイクラー（開織機）能力に合わせ100～130kg/h程度を計画している



リサイクルブレーカー RB-100型

(3)再生原料に戻す場合、土壌改良材などに使用する場合など目的によって解砕の粗密度（荒さ）を調整する

(4)再利用で原材料費の節減+廃棄物処理費の削減に貢献する

【利用】

(1)前処理行程のブレーカーが、完璧に予備開織を済ませているから、次のリサイクラーには過剰負担がなく、繊維切れと未開織片が少なく完全な再生原料に戻る。その上、歩留まりと生産性が一段と向上する

(2)天然繊維屑を、ブレーカーで土壌改良材に適する大きさに解砕して、肥料などを混合すれば、立派な改良材になる。ブレーカーだけの処理だから非常に簡単

(3)綿状に開織するとかえってクッション性が低下するので、ブレーカー処理程度の固さが最適

(4)産廃処理を依頼する場合でも、大きいままでは不可能。ブレーカーを通せば取り扱いも楽で、また経費削減にもなる

同社ではまた、青竹をほぐして繊維に加工する爆砕竹用特殊開織機“BH型”を製品化、発売した。竹の繊維が短く切れるといった従来機の問題を、シリンダーに特殊刃を装着することで解決した。

パルプや竹の繊維を溶かして紡糸するいわゆるレーヨン化工程なしで加工ができるなど、竹繊維の製造工程を短縮できる。このため製造コストも従来機に比べ約1/3に低減できる。

竹繊維は抗菌・消臭・吸着性に優れるため、病院や介護施設などのベッドパッドやシーツをはじめ、消臭やホルムアルデヒドを吸着する壁材用途にも適しており、近年着目されている。

さらに同社では、繊維ボールを量産できる“合織ボール成型機”を完成、受注を開始した。らせん溝をもった円筒状のローラーを回転させる仕組みで、原料の綿塊（円柱状）が摩擦によって回転しながらボール状に成形される。直径15～50mmまでの繊維ボールの成形が可能。

従来のボール成型機は、ドラムの外周にガイドラインを設置し、ドラムを回転させて1個ずつボールを成形しており、生産性が低かった。“合織ボール成型機”を使用すれば生産性は5倍から10倍に高まる。

問合せ先

池上機械(株)

〒671-0224

兵庫県姫路市別所町佐土913

TEL0792-52-1061 FAX0792-53-3902

<http://www.ikc.info/>